

産地魚類市場における水産物取引業務を省力化する デジタル化システムの開発

代表機関：国立大学法人鹿児島大学
共同研究機関：株式会社タナカサトル技術支援
実施年度：2023年度～2024年度（フェーズ2）
キーワード：水産物流通、デジタル化、魚類市場



研究代表者：江幡 恵吾

国産水産物の供給において重要な役割を担う産地魚類市場の多くは過疎化・高齢化が著しく進行する地域に位置しているため、人手不足は極めて深刻な問題である。
水揚げ情報をデジタルデータで収集して電子端末上で競りを行い、漁獲報告なども自動化する水産物取引デジタル化システムによって省力化を実現する。

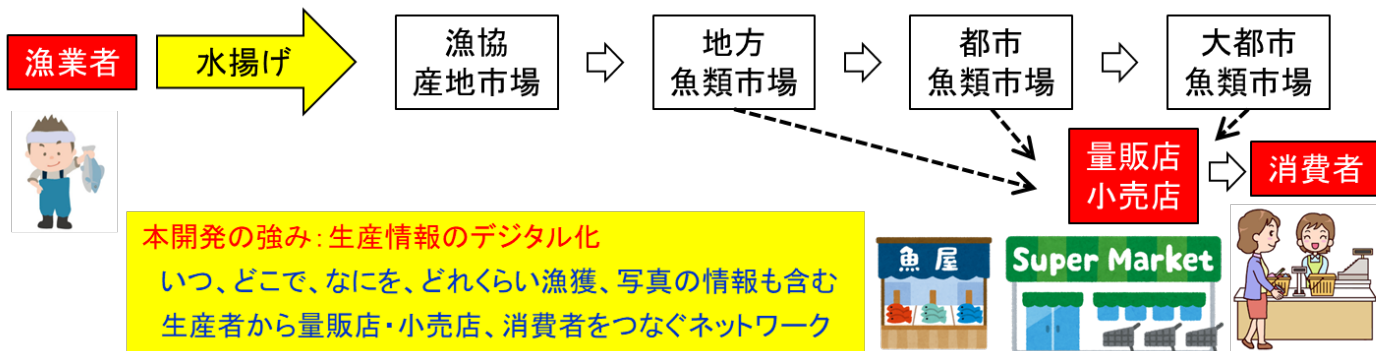
背景・目的 深刻化する産地魚類市場の人手不足をデジタルで解決する

産地魚類市場（漁業協同組合に併設）の現状と課題

- ・ 日本国内に約900の漁業協同組合、国産水産物の供給において重要な役割
 - ・ 過疎化・高齢化が著しく進行する地域に位置、人手不足は極めて深刻な問題、省力化は喫緊の課題
 - ・ 改正漁業法（2020年12月に施行）により漁業者は漁獲報告が義務付け
- 目的：全国各地の産地魚類市場の水揚げ業務に対応できる、汎用性の高い水産物取引システムを開発

目標 産地から消費地までの水産物流通ネットワークの構築

生産情報の見える化：全国の産地魚類市場における水揚げ状況をリアルタイムで共有



研究内容 計量器に魚を載せるだけで水揚げ情報をデジタル化

- ・ AIカメラを搭載した計量器の上に、魚を載せてボタンを押すだけで、魚種を自動判別
- ・ 水揚げ情報（生産者、漁獲方法、魚種名、重量など）をデジタルデータで生成
- ・ 電子端末で水揚げ情報をリアルタイムで閲覧が可能、オンライン競りの実施

<代表機関概要> 国立大学法人鹿児島大学

- HP： <https://www.fish.kagoshima-u.ac.jp/>
- 所在地：鹿児島市下荒田4丁目50-20
- 連絡先：ebata[アット]fish.kagoshima-u.ac.jp
[アット]を@に置き換えてください。

